

栄光園だより  
第121号  
2020年10月31日発行  
発行  
社会福祉法人 栄光園  
別府市南荘園町3組  
〒874-0904 電話 (23) 2827  
http://www.eikoen.jp/  
編集 広報誌編集委員会  
印刷 大野印刷株式会社  
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

# コロナ禍のなかで

社会福祉法人 栄光園

児童養護施設

栄光園

施設長

岡田豊弘



## 日常を一変した天災

百年に一度といわれる天災は、我々の日常を一変しました。台風のように、すぐに過ぎ去り、いつも通りの日常が戻ると、当然思っていました。しかし、その日常は新型コロナウイルス感染者がでた都道府県や感染者数を過敏に確認する毎日となりました。県内、市内に感染者が出れば、子どもたちには施設外に出ることを禁じ、子どもや職員に発熱者が出れば、ホーム(子どもが生活するお家)から出ることを禁じました。検温、うがい手洗い、手指消毒、マスク着用、三密を避ける、と徹底した感染防止対策をとりました。「子どもの命を守るため」といいながらも、万が一の場合の影響は計り知れず、日々新型コロナウイルス感染者が出た施設にならないように毎日祈っていたのは紛れもない事実でありました。

## コロナ禍での卒園・入所

さて、昨年度、5名の子どもたちがコロナ禍の中で当施設を卒園(退所)しました。例年、卒園する子どもたちを盛大に祝う会を催します。彼らは真新しいスーツを着て、社会で貢献する意気込みをみんなの前で述べ伝えて、卒園していくのですが今回はできませんでした。残

不安や恐怖の日常の中、長年にわたり支援していただいている方、近隣の地域の方々、その他あらゆる方面より励ましの電話や手紙やメール、そして感染対策の医療衛生用品や食料品、衣料品や雑貨のご寄付が毎日届きました。コロナ禍での救いは皆様からの「あたたかい眼差し」でした。手作りマスクのプレゼントは1000枚を優に超え、子どもたちは可愛らしいマスクをつけて元気に登校しています。

念でなりません。しかし、5名ともに置かれた職場や専門学校で立派に咲いています。農業に従事する若者は猛暑の中で、袖子や野菜をつくっています。「ただいまー」と言って、真っ黒に日焼けした笑顔を私に見せてくれます。

5名を社会へと見送った後、新しく5名の子どもたちが当施設での生活をスタートしています。新しく入所する子どもたちはそれぞれ6軒の独立したホームで生活します。このコロナ禍により、学校にも、外にも出ることができずホームの仲間と過ごす時間が長かったことや、憎むべきは「コロナ」という水面下のスローガンがあり、既に所属意識は強く、「〇〇ホームの〇〇です」と私にも挨拶をしに来てくれます。

## 出身者を孤立させない

このコロナ禍の中、当施設出身者の2名の方が相次いで自死いたしました。30代、40代の働きざかりの若者です。彼らは、生後間もないうちから乳児院、そして児童養護施設で生活し、社会に巣立っていきました。しかし、彼らの人生の半分が当施設で過ごした短い生涯となっしまいました。私にとりまして、寝食をともにし、同じ時代を過ごしました

出身者にとつての卒園は、一人で生きていくことを意味していたと思います。高校を中退し、数日中に就職先を見つけ、そのまま社会に出る者も当時は多くいました。自ずと疎遠になりました。彼らの遺骨をこの数か月の間で2回拾うことになった事実は、社会に巣立った出身者たちの孤立しない取組につながりつつあります。彼らの死によって、これまで疎遠だった出身者が一同に集まり、孤立しないよう、連絡先を交換し合ったこと、出身者同志のつながりや絆を深めていくことと立ち上がっている若者が出てきたことは、せめてもの救いであり光です。心からご冥福をお祈りいたします。

## 種を蒔く人

最後に、聖書の中に「種を蒔く人」のたとえがあります。ある人が種を蒔きました。道端に落ちた種は鳥が来て食べてしまいました。石だらけで土の少ない所に落ちた種は、すぐに芽を出しましたが、日が昇ると焼け、根がないために枯れてしまいました。茨に落ちた種は、芽を出したものの茨が伸びてふさいでしまったので実を結びませんでした。最後の良い土地に落ちた種は、芽生えて育つて実を結び、30倍から100倍の収穫をもたらしました。

良い土地に蒔かれた種がしっかりと芽生え育って実を結ぶように、感謝の心、素直な心、小さく弱い人を大切する心を持ち育むことで、このコロナ禍の山を乗り越えていきます。



# 児童養護施設

## ひろひろに合った 学校選択を

キャサリンホーム  
ホーム長 宮崎 洋子

今年度のキャサリンホームは、男児5名(小学生2名・中学生3名)が生活しており、その中で今年度は小6・中3の2名が来年度に向け進路決定をしなければなりません。この2名にとってより良い学校選択が出来るよう、児童相談所・医療機関・学校・保護者を交えて進学先を検討している状況です。

小6男児は、特異な発達特性を持っており、医師や心理士のアドバイスを頂きながら本児にとって一番安定した生活を過ごせるよう、絵や文字を使ったカードや居室のレイアウトなど工夫を凝らし、日常生活の中で様々なことを習得出来る様支援をしています。その成果もあってホームの中では一番の成長株となりました。

中3男児は、小1の頃からサッカーのクラブチームに所属し、9年間サッカー漬けの毎日でした。外部の方達と接する機会が多いため、対人スキルは大人顔負けです。人当たりの良さを十分発揮し、社会に出て独り立ちした際に良好な人間関係を育むことが出来るのではないかと思っています。

しかし、これまで園で行われている週1度の学習ボランティアに参加することが殆ど出来なかつたので、それを取り戻すため部活動引退後から市内の塾に週1

度、通塾しております。

兩名だけではなく、他の児童においても一人の人格者として其々にあった支援方法で取り組んでいます。どうかキャサリンホーム 男児5名をこれからも暖かく見守って頂けると幸いです。

## 子どもたちの心に 寄り添いながら

マツモトホーム  
ホーム長 竹原 史雅

マツモトホームは3歳から17歳の女児5名が生活しています。

Aちゃん(4歳)は昨年度より、Bちゃん(3歳)は今年度より幼稚園に入園しました。はじめての幼稚園の生活に戸惑うのかと心配していましたが、帰って来ると「楽しかった」「今日ね、これ作ったの」など話してくれ、安心したことを憶えています。今では幼稚園で色々な経験や体験をして心身共に成長していると実感する毎日です。

日頃は、仲良く遊んだりしていますが、突然ケンカがはじまることもあります。その度に2人の話をゆっくりと聞き、子



### 聖書の言葉

## 「受けるよりは与える方が幸いである。」

(使徒言行録20:35)

別府不老町教会伝道師 尾崎 二郎

この言葉は、皆さん一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。しかし、受け取り方は千差万別です。無邪気な子どものような方なら、「いや、もらう方が嬉しいに決まっています」と断言されるでしょう。又、多くの人生経験を経た大人の方なら、「受ける幸いは自分自身を与える者へと変え、彼は与える喜びに生きるようになるのだ」と述べられるかも知れません。作家の瀬尾まいこさんは、「愛情は注がれるより、注ぐあてがある方がはるかに幸せ」と述べておられます。

与える喜びが受ける喜びに勝り、与える喜びが身につけて、与える喜びがその人の生活の基本となるためには、試練と訓練を経る必要がある様に思えます。この聖書の言葉を語ったパウロも、自らが苦難の人生を歩む中で、自分が受けることよりも、周りの人々のために働き、ことに弱い人々を助けるように、何かを与え続けることの方がはるかに幸せであることを悟りました。そして、その真理を周りの人々に伝え励ますために、このように語ったのでした。

E・フロムは名著『愛するということ』の中で次のように考察していま

す。「与える」という意味で人を愛することが出来るかどうかは、その人の性格がどの程度発達しているかどうかによる。愛するためには、性格が生産的な段階に達していなければならぬ。この段階に達した人は、依存心、ナルシズム的な全能感、他人を利用しようとかなんでも貯めこもうという欲求をすでに克服し、自分のなかにある人間的な力を信じ、目標達成のためには自分の力に頼ろうという勇気を獲得している。これらの性質が欠けていると、自分自身を与えるのが怖く、したがって愛する勇氣もない。」

フロムも、この世の中で生きる私たちが身を持って感得していく一つの真理を語っています。あらゆる価値が金銭的価値に置き換えられる傾向を示すこの世の中にあつて、フロムの言葉には説得力があります。最後に金曜学校での体験を語りたいと思います。私が子どもたちに「誕生日のお祝いって、貰うよりあげる方がうれしいよね。なぜなら貰うのは年一回だけだけど、あげるのは年に何回もあるから」と問いかけると、多くの子どもたちが目をキラキラと輝かせていました。



### 秋の恵み お芋の出来は？



5月の末に園内の小さな畑にサツマイモを植えました。だいたい120日で収穫出来るということでしたので試しに一株掘ってみました。今月みんなでお手ほりをして、お手が甘くなったら頃を見計らって焼き手にしてみたいなでいただきます。

子どもたちの気持ちをしっかりと受け止めてあげるようにしています。受け止めるということは、認めることです。認めることの積み重ねが自己肯定感を持たせていくことに繋がっていくと思うからです。幼稚園で頑張った反動なのか、甘えがひどくなる時もありますが、日常生活での自己主張と同じくらい甘えたい気持ちもあることを理解した上でしっかりと受け止めていきたいと思っています。大人側としても大切な時期の経験だと思いつつも戸惑い、悩むこともありま。気長に根気強くという気持ちで向き合うことの大切さを感じています。これからも子どもたちの心に寄り添って子どもたちの成長を見守っていききたいと思つ

### 前進会 環境部門と児童会部門 共同活動

## 子どもたちと一緒に草むしり

環境部門責任者 直野 弥呼 (児童指導員)

環境部門の主な活動としては、①遊具管理②自転車管理③公用車洗車の呼びかけ④清掃活動です。遊具や自転車の管理については、子どもたちが怪我や事故なく安心して使ってもらえるよう細かい部品までチェックを行っています。また、公用車は児童の送迎や職員が他機関へ移動する時に使うことが多いので、常に綺麗な状態で乗ってもらいたいという思いがあります。そのため、月に1回、施設にある6台を専門職やホーム職員が子どもたちと一緒に手作業で洗車を行っています。

清掃活動については、小学生を対象に8月11日に児童会部門と協力して草むしりを実施しました。職員1人に対して小学生3~4人という班分けをし、熱中症や暑さのことも考慮したうえで、日頃から使っている園庭の木陰で草むしりを行いました。「見て!いっぱい草取れた!」「わあ!ダンゴムシ見つけ!」と子どもたちの賑やかな声。顔は汗と土でぐちゃぐちゃに汚れていましたが、お構いなしに草刈り機のように次々と草むしりをしていく子どもたち。ついつい職員からも笑みがこぼれ、子どもたちから癒しを貰ったように感じました。抜いた草もゴミ袋10個分と大量に取れ、大成功に終わることが出来ました。

最後に子どもたちから「頑張った!綺麗になって嬉しい!」という感想を貰いました。私自身、草むしりを計画して本当に良かったと思うと同時に達成感を味わいました。自分たちが生活する場所は自分たちの手で綺麗にしていくことが大事だと思います。その大事なことを、少しずつ子どもたちに伝えていくことが私たち環境部門の役目だと感じております。

# 前進会

児童養護施設 職員の会

## 子どもの安心・安全・快適を考える

前進会事務局 羽明 華野子

今回は、児童養護施設職員主導の栄光園独自の活動について紹介いたします。それは「前進会」といった、学校などでよくある、いわゆる「委員会」のようなものです。この前進会は5年ほど前に発足し、「子どもの安心・安全・快適を考える」をテーマに、活動しています。私は数ある部門の中で「事務局」の責任者を昨年度より任せられ、前進会の運営に励んでいます。前進会の最大の目的は「子どもたちのため」。子どもたちの毎日を少しでもより良いものにしたいと尽力しています。例

えば、敷地内の環境整備を担う「環境」。子どもたちの声に耳を傾け、時には子どもたちと議論を交わし、時には一緒に楽しめる企画を行う「児童会」。園での年間行事を仕切る「行事企画」、職員の資質向上を図るために研修の導入を担う「職員研修」、主に子ども同士での性暴力や性的な問題に対応する「性問題対策」、月に一度、日々の困りや要望などを職員が子どもへ個別に尋ね、寄り添い、子どもたち一人ひとりを応援していく「応援の時間」。そして、様々な部門を束ねる「事務局」。現在は今挙げた7つの部

門で活動しています。私はこの「前進会」に誇りを持っています。それぞれの職員が目前の子どもたちへもつとてできることはなのかと考えることこそが、この仕事をやるにあたり最も大切なことではないかと思つています。それぞれの部門に特化した活動を今出せるベストを尽くし精一杯やる。それが園の強みとなり、今後ともバージョンアップを重ねながら活動していけたらと思つています。



# 乳 児 院

## 保育主任 本庄公多子 花火を見たよ

8月に計画をしていた花火ですが、台風などで延期になり、9月によりやく実現しました。

いつもならお風呂に入ってゆっくりにいたり、小さい子は眠っている時間帯なのですが、この日はテラスに出ることになり、子どもたちは「何があるんだろう？」と不思議そうにしていました。

生まれて初めて見る花火に、子どもたちはビックリして保育者にしがみついたり、無言でじっと見つめたりしていました。が、次々に色とりどりの花火が上がり始めると「わあー」と歓声があがるようになりました。ほんの短時間ではありましたが、夏の風物詩の一つとして花火を見る経験ができて良かったと思います。

少しずつでも、季節を感じられることを取り入れながら、子どもたちに経験してもらいたいと思います。



## 子ども同士で育つチカラ

乳児院の子どもたちは、生まれて間もない頃に入所してくることが多いので、様々なことは私たち職員から教えてもらったり、真似をしたりして学んでいくのですが、それ以上に子ども同士で学ぶことが大きいなあとと思うことがあります。

例えば、一人の子どもが立ったり、歩き始めたりすると、大人が教えたわけでもないのに、それを見て他の子どもも立とうとしたり、歩こうとしたりするようになります。また、食事の場面でも、なかなかおぼつかずかたて食べたがらない子どもに、「ほら〇〇ちゃんが食べてるよ」と他児の様子を見せると、すんなり口に入れたり子ども同士の影響はすごいです。



もちろん良いことばかりでなく、いたずらもすっかり影響されていくので悩むところのひとつでもあります。とはいえ、自分から「やってみよう」「真似てみよう」と思えるのは、子ども同士だからこそであって、大人が無理に教え込むと反発するのだからうな思っています。家庭の中のきょうだい同士で学んでいくように、乳児院の中でもお互いに真似たり、学んだりできることは良いことではないかと思うと同時に、子どもたちが成長していく過程を大切にしていきたいと思えます。

# 青山 保育所

## 子どもまつりがありました

保育士 尾原 亜紀

今年の夏祭りは新型コロナウイルスの影響で子どもたちだけで行ないました。ぞう組2年生のお神輿担ぎを見たり、青山音頭を踊ったりしてお祭りがスタート！お菓子釣り、ボーリング、くじ引き、大型迷路やボールプールのコーナーで遊んだりしてお祭りの雰囲気を楽しみました。給食はお祭ランチプレート（ハンバーグ+セット）でした。子どもたちには好評で、美味しそうに頬張っていました。お友だちはちょっと疲れたのか、いつもよりグッスリお昼寝していました。

来年は、コロナウイルスも終息し、例年通りの夏祭りをお家の人と一緒に楽しめたいいな...と思います。



## 子どもたちは挑戦が大好き

主任保育士 二宮 孝介

8月は晴れの日が多く、たくさん水遊び、プール遊びができました。大型プールには今年から園長先生手作りのジャンプ台が加わりました。子どもたちは何度も何度も台からプールへとびこみます。できるだけ高く、高くとびこもうとしたり、コマのように回転しながらとびこんでみたりしていました。そこには子どもたちが工夫して遊ぼうとする姿が見られました。



ところで、子どもはなぜジャンプ台から様々な方法でプールにとびこむのでしょうか。それは限界に挑戦して己の能力を高めるためなのだそう。簡単な挑戦は「不安」に感じる。その間の限界ギリギリの挑戦を経験して、退屈になってきたら子どもたちはさらに様々な挑戦を試みてい

くのだそうです。大型プールのジャンプ台での姿は、まさしくそうした子どもたちの挑戦の姿だと思いました。

今回はプールでの姿を例にしましたが、私たちの設定保育でもそうした「限界ギリギリの部分」に子どもたちが個別に取り組めるように遊びを設定することが理想です。もともと子どもたちが持っている自ら成長しようとする姿を援助する保育、子どもたちの主体性を大切にする保育を心がけていきます。

### 子どもたちのお楽しみ♪ 「多治見劇場」

保育士 渡邊 歩

「多治見劇場」とは、青山保育所の元職員 多治見敬子さんがボランティアで保育所に来て楽しいお話をしてくれる、子どもたちが楽しみにしている月に一度のお話の会です。今年度は新型コロナウイルスの影響で開催が見送られてきましたが、9月より再開することになりました。

毎月昔話を題材にペープサートを作り、ピアノを弾いて子どもたちと一緒に歌ったり、手遊びをしたりします。ぼんだ組の保育室で行われるのですが、その間の30〜40分は保育室がとても温かな雰囲気になります。子どもたちも目を輝かせながら一緒に歌ったり、お話を夢中になって見たりしています。このとき改めて私たち青山保育所は地域の方々の助けにより成り立っている部分が大いなことを感じます。

多治見さんは保育所に来られるたびに「私が子どもたちから元気をもらっているのよ」とおっしゃっています。私たち保育士も多治見さんが子どもたちの前で楽

しそうにしている姿を見て、保育の原点のようなものを思い出させていただいています。これからもこの「多治見劇場」が長く続いてほしいと願っています。



### とんぼのめがねを作ったよ

保育士 大海さくら

秋の訪れを知らせる様に、園庭や栄光園グラウンドにとんぼが飛ぶ季節となりました。そんなとんぼを夢中で追いかけて、虫とり網を持って捕まえようとする子どもたち。素早く飛ぶとんぼは、捕まえるのが難しいようで、「先生とんぼ捕まえて！」と保育士も一緒にとんぼを捕まえています。捕まえたとんぼを手作りの虫かごに入れ、興味津々に観察している姿が見られます。

また、年中、年長の子どもたちはとんぼのめがねを作りました。保育士が作り方を説明すると、あつという間にとんぼの

めがねを完成させた子どもたちです。めがねのレンズの部分には水色のセロファンが貼られていて、完成しためがねをかけた子どもたちは眼鏡越しに見える水色の世界に驚いていました。普段過ごしている保育園の中がどんな景色に変わるのか、友だちを誘って園舎の中や園庭のあちこちを探検した子どもたち。「曇り空が空が青くなった。」「水たまりが水色になった。」「赤が紫に見えた。」など子どもたちの言葉から身近な環境を通して学び、成長している様子が見られました。



### 野口保育所

主任保育士 末吉 佳奈

猛暑が続いた夏も終わり、少しずつ朝夕も涼しくなってきました。秋が深まってきたように感じる今日この頃です。今年もあと2ヶ月、あつという間ですね。

夏から秋にかけての子どもたちの様子を少しずつですが、ご紹介していきます。

### 夏の遊び

子どもたちはプールや水遊び、泥遊びなど夏の遊びをして過ごしました。子どもたちは毎日「今日プール入る？」と楽しみにしていて、色々な夏ならではの遊びを満喫していました。プールの中では子どもたちの素敵な笑顔をたくさん見ることが出来ました。



### 夏祭り

今年度は8月5・6日の2日間夏祭りを行い、テーマは「みんなワイワイ夏祭り」でした。今年度は例年の夏祭りとは違い、保護者・地域・卒園児を呼ぶことが出来なかつたので、子どもたちが楽しめるように、各クラスが作った提灯を廊下に飾ると夏祭りの雰囲気になりました。

今年のめろん組の子どもたちはみんなで鬼滅の刃のお神輿を作ったり、職員もマジックショーの催し物をしたり色々なキャラクターに変身し、子どもたちが喜んでくれ、職員も嬉しかったです。

今年はいつもと違う夏祭りでしたがゲームや景品も手作り、給食も1日目はバイキング、2日目はお弁当ランチで子どもたちが好きなメニューばかりで子どもたちはすごく楽しんで食べていました。



### 流しソーメン

食育の一環として今年の流しソーメンは5歳児が3歳未満児のソーメンを目の前ですくい、トッピングから配膳までしてくれました。

5歳児は張り切っていて、未満児の子ともたちもお兄ちゃん・お姉ちゃんが目の前でしてくれ



たことを喜んでいて、いつも以上によく食べていました。3歳以上児の子どもたちは自分たちでソーメンをすくい、トッピングをして食べました。戸外で食べたソーメンは格別だったようです。

### お月見会



今年度は各クラスで行いました。りんご・めろん組は合同でお月見の話を聞いたり、紙を使ってお団子を作って玄関に飾りました。他のクラスも各年齢に合ったお話をしてもらったり、お月見の制作をして過ごしました。

お月見当日の10月1日は、給食の先生が”お月見弁当”を作ってくれ、子どもたちも喜んでよく食べていました。



### 出張おやつ

食育活動の中で給食の先生が午後のおやつの際に、クラスを訪問し、目の前でおやつを作ってくれます。時にはクッキングも一緒にします。目の前で焼く所を見せてくれることで子どもたちもみんなで匂いを嗅いだり、「いいにおいやなあ」「美味しそう!」など言いながら目でも見て楽しんでいきます。出張おやつの際はいつも以上に子どもたちはおかわりして食べます。

これからも子どもたちが楽しめるような食育活動を考え、取り入れていきたい

と思います。



### 地域交流事業

### 集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

### 9月の活動

”暑さ寒さも彼岸まで”と言われますが、最近では吹く風も随分秋めいて日に日に秋が深まってきているように感じられます。

9月20日(日)に、くるみの活動を行いました。今回は、以前経験したことがある”ポッチャ”を楽しみました。

4チームに分かれてのリーグ戦で最後まで集中して取り組むことができていました。

チームごとに作戦を立てていたり、最後の最後で逆転のスーパースhotsを投げる子どももいたりして、スリル満点でもとても楽しかったです。印象的だったのは、日頃は、勝負にこだわって負け

た時に泣いてしまう子どもがいるのですが、今回はそのようなこともなく、負けても大騒ぎすることはありませんでした。一人一人が、集中してゲームに取り組み充実した時間を過ごしたためかなとも思います。

充実した時間を過ごさせることの大切さを改めて感じるとともに、トラブルが起きるような場合は、活動自体も考えていく必要があるのだと反省もしました。今後も子どもたちが、充実した時間を過ごせるような活動を考えていきたいと思えます。



### ボランティア募集

### 広い視野をもつために

職業選択の際、しっかりとした目標をもって仕事を選ぶことができた子どもたちにとっていいスタートが切れるので

はないでしょうか。

そのためにもたくさん本を読んだり、いろいろな経験活動に参加したり、様々な職種の方々とお話をしたりして児童の世界を広げていくことが必要なのではないかと考えます。広い視野で社会を見る目を養い、自身の職業選択を自分で決められるようになってほしいと願っています。

そこで、子どもたちと関わってくださるボランティアを募っております。子どもたちに色々なお話を聞かせていただいたり、特技を見せていただいたり、どんなことでも構いません。子どもたちと一緒に時間を過ごしていただくとありがたいです。

ただ、新型コロナウイルスの感染状況により感染防止のための制限も設けさせていただいておりますのでご理解ください。

子どもは社会の宝“社会全体で子どもたちが幸せな時を過ごせるよう力を合わせていきましょう。

**ボランティアの方々  
ありがとうございます**

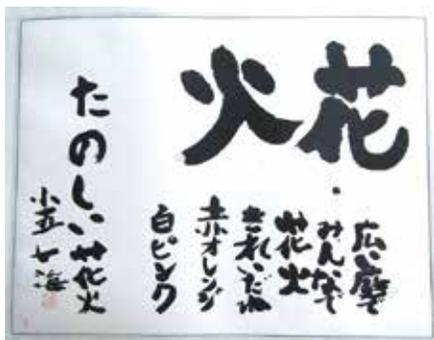
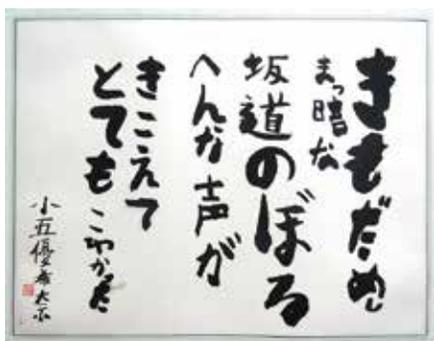
9月は、3名のボランティアの方々がくるみの活動にご協力いただきました。

活動前の打ち合わせの際も、活動終了後の反省会においても有意義なご意見をいただいております。職員とは違った視点からのご意見は、とてもありがたく、私たち職員の気づきにもなっております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



eikoen gallery

**子どもたちの書道作品**



指導 / 荒金節子先生

**新型コロナウイルス**

**自分や自分の家族、同僚を感染から守るために**

最近の新型コロナウイルスの感染状況を見てみると、家庭内感染や職場内感染が目立つようになってきました。

そこで、自分や自分の家族、同僚を感染から守るためにはどうしたらよいのかということについて考えてみようと思います。

**①こまめな手洗いと手指消毒を徹底する。**

インフルエンザ予防で実践してきたことを徹底する。石鹸を使って20秒以上かけて手を洗いましょう。手指消毒薬も「置いてるだけ」ではダメです。外から帰ってきたら必ず、手洗いか、手指消毒をしましょう。

**②多くの人が触る場所は、時間を決めて消毒しましょう。**

ドアノブや水栓、エレベーターのボタン、ひじ掛けなど

**③外出中は、顔を触らない。**

手についたウイルスが目や鼻の粘膜から侵入します。家に帰ったら手洗いと同時に顔を洗いましょう。



**④マスクは、正しく装着しましょう。**

**⑤周囲に感染させないための「咳エチケット」の徹底をしましょう。**

新型コロナウイルスについて少しずつ分かってきましたが、感染していても症状のない無症状者がいることは明らかです。誰もが、自分が感染しているのではないかという思いをもって行動していくことが大切なのではないかと考えます。思いやりの気持ちをもって自分の周りの方たちと関わってまいりましょう。

また、もう一つ大きな問題があります。「コロナ差別」です。

危険と隣り合わせで患者の治療に当たる医療従事者を排除する動きや風評被害も多いと報道されていました。

「コロナ差別」は、日本の歴史の中でも「村八分」という排除の思想に基づくものではないかと思えます。人権を傷つける見過ごせない行いであるだけでなく、感染拡大を防ぎ社会経済活動を維持していく上でも大きな障害となるのではないのでしょうか。

施設や企業などが感染者が出たことを明らかにするのは、接点があった人に注意を促し、拡大を抑えるためには必要な措置です。しかし、公表すると激しい攻撃にさらされるとなれば事実を隠す方向に流れ、感染経路の追跡も難しくなります。

今必要なのは、差別や中傷を許さない姿勢を社会全体で示していくことではないでしょうか。排除ではなく『withコロナ』の考え方で温かい社会となることを願っています。

(原田 康子)

**クリスマス祝会中止のお知らせ**

例年日頃からお世話になっております皆様においでいただき開催してまいりましたクリスマス祝会ですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とさせていただきます。

今年のクリスマスは、来年度、祝会を再開できることを祈りながら静かにクリスマスをお祝いしたいと思います。

# 栄光園のご支援者

## ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員の励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

児童養護施設の子どもの進学等を重点的に支援する目的で始めた『自立進学資金(栄光園ファミリークラブ)』の枠は上級学校への進学により社会で活躍できる領域を格段に広げる重要なアフターケアだと考えております。現在当園でも中高生が児童の6割を占めるようになりました。どうか子どもたちの未来にお力をお貸しください。よろしくお願いたします。

栄光園をお支えいただいております皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお願いいたします。

【2020年7月1日～2020年9月30日(末日)】

### 賛助金

- 安部道人様 大分市
- 宇戸美和子様 大分市
- 江川朱美様 大分市
- 加藤敏夫・千佳様 竹田市
- 後藤正勝様 別府市
- 竹長イヅ子様 大分市
- 立花旦子様 大分市
- 増田百枝様 日田市
- 宮澤淑子様 大分市
- 山口産業(株)様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市
- (有)後藤商店様 別府市
- 伊勢方信様 別府市
- 岩田哲也様 大分市

### 一般寄付

- 別府市
- 大分市

大分AJET代表 ローウィッツ・ジョシユア様

小手川裕市様 別府市

多田利浩様 別府市

医療法人ルミエール歯科 藤井茂仁様 日出町

宮崎孝義様 別府市

宮崎智恵美様 大分市

(有)栄光建設 塩月逸男様 大分市

吉村克幸様 富田林市

安東秀典様 大分市

梶原康弘様 大分市

神島慶子様 杵築市

辛島陽子様 別府市

松本常圃様 別府市

匿名様 大分市

### 特別物品寄付

- 服 安部勇様 池田裕美様
- 粉ミルク パン 石窯工房モコモコ別府店様
- パン マスク 一般財団法人APバンク外谷様
- 自転車 糸永隆一様
- キリスト教DVD いのちのことは社通販課(定期購読課様)
- くり・かぼちゃ・じゃが芋 NPO法人むぎの会様
- お菓子 大柳恵子たんぼぼ食堂(ども食堂)様
- マスク 大分県福祉保健企画地域福祉課様
- 絵本 小原君子様
- ぶどう 「ぶどうの丘」角脇博文様
- 米 (株)荻原書籍様
- マスク (株)トータルデザインセンター様
- 缶詰・砂糖・スコーンミックス (株)豊豫物産様
- 納豆 (株)丸美屋 九州納豆協会様
- おしりふき 黒木貴子様
- アイス 九州アイスクリーム協会様
- パン ココロト様
- クリップファイル 佐藤勝正様
- カップ麺 佐川急便(株)様
- ソフトドリンク・カップスープ
- ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)様
- マスク・ジューズ さわやか別府の里様
- そうめん 菅信介様

### 自立進学資金

- 大分市
- 大分市
- 杵築市
- 別府市
- 別府市
- 大分市
- 福岡市

雑貨・服 隅田勝利様

みかん・ゼリー・ジュース 税理士法人シューウェイブ様

乳児衣類 第一生命保険(株)様

米 つばきラボ 塩見泰美様

パン 友永パン屋様

スイカ・梨 中山田正春様

オリブオイル 二宮篤様

野菜 二宮洋典(株)九州錦運輸様

マスク 日本労働組合総連合会・大分県連合会様

マスク 林田信男様

絵本・衣類・雑貨・果物・学用品等 福本陽子様

フェイスシールド 三菱電機(株)九州支社様

高校受験問題集 宮崎孝義・智恵美様

フオローアップミルク 森永乳業(株)様

衣類・おもちゃ 山口幸恵様

お茶 屋久島東部茶生産組合様

風船・粉ミルク (有)竹苑 向寿子様

### 招待・奉仕

- 小中学習ボランティア 安東秀典・井上せつ子・山口香様
- 児童の散髪 Kヘアー様
- 金曜学校 猪股通安様
- スポーツボランティア タイム・ディック様
- ハンドマッサージ 三浦・北山・平川様
- 書道 荒金節子様
- 映画鑑賞 別府ブルーバード劇場様
- 芋掘り NPO法人むぎの会様
- 草刈り さわやか別府の里様
- 多治見劇場 多治見敬子様
- 集いの場くるみ 平川・田中・前田様

### 2020年度10月 職員の間静

#### 採用 ● 乳児院

中村 宣子(保育士) 8月1日付

#### 退職 ● 乳児院

井上 蘭(保育士) 7月14日付  
小畑 暢子(心理士) 7月31日付

### 賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割可。  
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務局は、別府市南荘園町3組です。  
賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌『栄光園だより』を送付させていただきます。

郵便局での振込は左記までお願い致します。  
□ 座名義 社会福祉法人 栄光園  
□ 座番号 0193012-20748



### 苦情等相談窓口

\*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。  
tel.0977-23-2827  
fax.0977-23-7520  
mail eikoen@live.jp

### 編集後記

10月よりインフルエンザの予防接種が始まりました。これからの季節、インフルエンザと新型コロナウイルスの両方のウイルスへの対応が必要となってきます。  
今回の紙面からもコロナウイルスの感染拡大の大きな影響が見取れます。ただ、その中で「みんなのために何かしてあげたい」という人の温かさにも気づかせてくれました。きっと皆さんは、「自分に何が出来るだろう」と自問自答しながら、行動されたのではないかと思います。ウイルスのように、この温かい気持ちを次々に感染させていけたらいいのにとふと思ったりもしました。新しい生活習慣の下で温かい社会になってほしいものです。(原田)